

## 平成20年度第3回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
 中央水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2009年4月～7月)のポイント

#### 海況

潮岬以東の黒潮は、期間を通して規模の大きなC型流路で推移し、5～6月に一時的にB型流路となる。  
 沿岸水温は、熊野灘以西が「平年並み」～「高め」、渥美外海～犬吠埼が「平年並み」～「やや低め」で暖水波及時に「高め」、伊豆諸島南部海域が「低め」でB型時に「高め」、犬吠埼以北が「平年並み」～「低め」で黒潮系暖水波及時に「高め」で推移する。

※ 平年並み＝平年値±0.5℃程度、高め＝平年値+1.5℃程度、  
 やや低め＝平年値-1.0℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

#### 漁況(来遊量予測)

マサバ・ゴマサバ太平洋系群

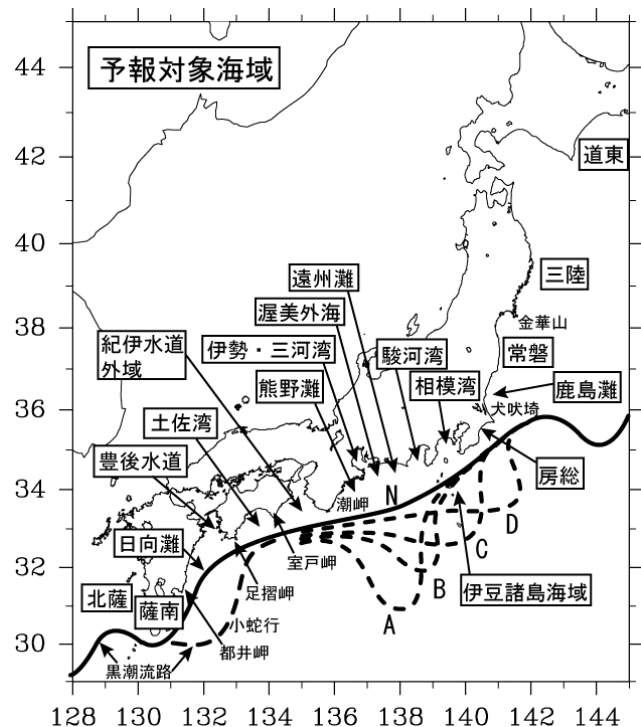
2歳魚は前年を上回る。

マイワシ太平洋系群

全海域通して低水準で推移する。

カタクチイワシ太平洋系群

西日本では前年を下回り、  
 東日本では前年を上回る。



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>

## 中央ブロック海況予報

### 今後の見通し（2009年4月～7月）

#### (1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと。）

##### ◎潮岬以西

- ・ 薩南海域の黒潮北縁は、屋久島南付近の平均的な位置で推移し、6月に離岸傾向となる。
- ・ 黒潮は、都井岬沖～足摺岬沖では4月と6～7月に一時的に離岸傾向となるほかは接岸傾向で推移する。室戸岬～潮岬沖では期間を通して離岸傾向で推移する。

##### ◎潮岬以東

- ・ 黒潮は、期間を通して規模の大きなC型流路で推移し、5～6月に一時的にB型流路となる。
- ・ 野島崎沖の黒潮は、期間を通して接岸～やや離岸傾向で推移する。

#### (2) 薩南～房総沿岸域

- ・ 潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って沿岸域へ一時的に暖水が波及することがある。
- ・ 潮岬以東では、熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は概ね冷水域に入る。ただし、B型流路のとき、熊野灘～遠州灘は内側反流による暖水の影響を受ける。伊豆諸島南部海域は蛇行北上部の変動に伴って昇温と降温を繰り返す。

#### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 親潮由来の冷水が沿岸域に波及することがあるが、徐々に弱くなる。
- ・ 房総沖の黒潮の離接岸や、暖水舌の形成によって、暖水が沿岸域へ波及することがある。

#### (4) 沿岸水温

- ・ 熊野灘以西は「平年並み」～「高め」で推移する。
- ・ 渥美外海～犬吠埼は「平年並み」～「やや低め」で暖水波及時に「高め」で推移する。
- ・ 伊豆諸島南部海域は「低め」で推移し、B型流路のときに「高め」となる。
- ・ 犬吠埼以北は「平年並み」～「低め」で推移する。ただし、黒潮系暖水波及時に「高め」となる。

※ 平年並み＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、

（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

**経過（2009年1月～3月）** （注：経過は図2を参照のこと。）

**(1) 黒潮**

- ・11月以降、規模の大きなC型流路で推移した。
- ・12月下旬～1月上旬、伊豆諸島の東側で流路がS字状になり、房総半島沖では接岸した。
- ・1月中旬、房総半島沖の蛇行部が切り離され、房総半島沖を大きく離岸する流路となった。

**(2) 薩南～房総沿岸域**

◎薩南海域

- ・1～2月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。
- ・3月上旬、黒潮北縁は接岸傾向で推移した。

◎潮岬以西

- ・12～2月、都井岬～足摺岬沖は接岸傾向で推移した。
- ・12～2月、室戸岬～潮岬沖は離岸傾向で推移した。

◎潮岬以東

- ・12～2月、熊野灘～伊豆諸島域で断続的に暖水の波及があった。
- ・1月中旬、房総半島沖で黒潮蛇行部が切離され暖水域となり、黒潮は離岸した。

**(3) 鹿島灘～常磐南部海域**

- ・1～2月、冷水域と暖水域が存在し、沿岸部で「低め」、沖合域で「高め」傾向で推移した。
- ・2月中旬、親潮系冷水が急激に南下してきた。

## 現況 (2009年3月18日現在)

### (1) 黒潮

- ・規模の大きなC型流路で推移している。

### (2) 薩南～房総沿岸域

#### ◎薩南海域

- ・黒潮北縁は屋久島の北に位置している。

#### ◎潮岬以西

- ・黒潮は都井岬沖～日向灘で「やや離岸」、足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖～潮岬沖で「やや離岸」している。

#### ◎潮岬以東

- ・黒潮は房総半島沖で「やや離岸」している。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・親潮系冷水が波及していたが、黒潮系暖水が波及してきた。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に従った。

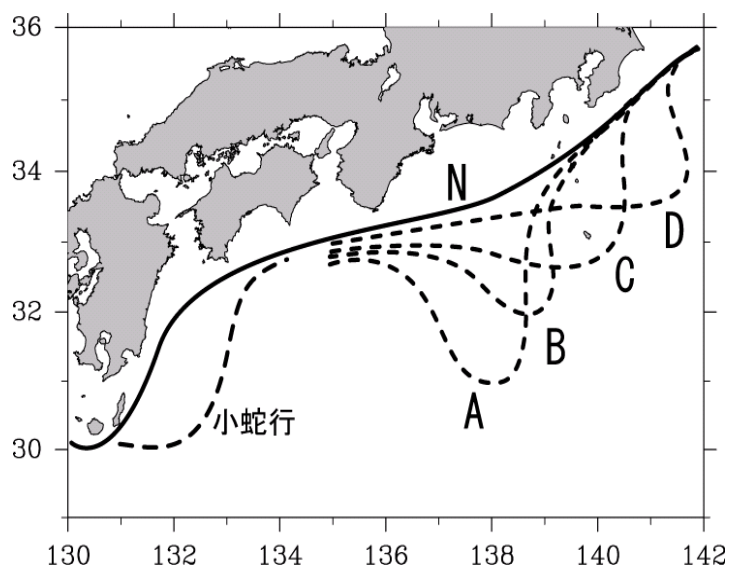


図1 黒潮流型の分類

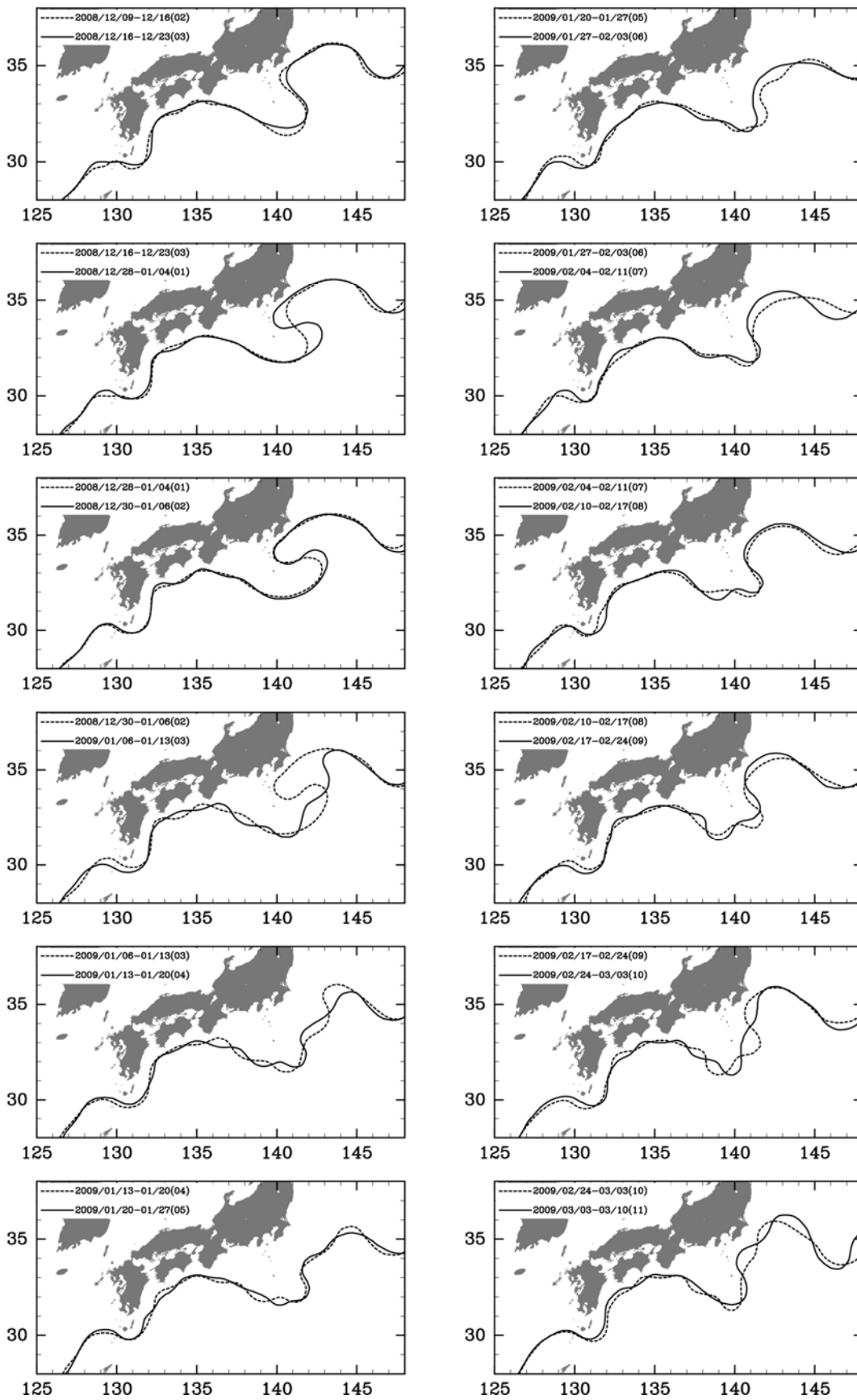


図2 黒潮流軸のパターン

(2008年12月~2009年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

## マサバおよびゴマサバ太平洋系群の漁況予報

### 今後の見通し(2009(平成21)年4月～7月)

対象海域: 薩南～豊後水道、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業: まき網、定置網、棒受網、たもすくい

対象魚群: 1歳魚(2008(平成20)年級群)、2歳魚(2007(平成19)年級群)、3歳魚(2006(平成18)年級群)、4歳魚(2005(平成17)年級群)以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。年初に加齢。

#### 1. 薩南～豊後水道(まき網、定置網)

- (1) 来遊量: マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は、薩南では前年を上回り、日向灘～豊後水道では前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳以上は前年を下回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期: 期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体: ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南海域では28～34cm(2、1歳魚)が主体。日向灘～豊後水道では30cm前後(2歳魚)が主体。

#### 2. 紀伊水道外域(まき網、定置網)

- (1) 来遊量: マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳以上は少ない。サバ類全体としては前年を下回る。
- (2) 漁期: 期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体: ゴマサバが主な漁獲対象となり、30cm前後(2歳魚)が主体。

#### 3. 熊野灘(まき網、定置網)

- (1) 来遊量: マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳以上は前年を下回る。サバ類全体としては前年並～上回る。
- (2) 漁期: 期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体: ゴマサバが主な漁獲対象となり、30～35cm(2歳魚)が主体。混獲されるマサバは30～34cm(2歳魚)が主体。

#### 4. 伊豆諸島周辺海域(棒受網、たもすくい)

- (1) 来遊量: マサバ1歳魚は前年を下回る。マサバ2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を大きく下回る。4歳魚以上は少ない。マサバとしては前年並。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳以上は少ない。ゴマサバとしては前年並。サバ類全体としては前年並。
- (2) 漁期・漁場: マサバは伊豆諸島北部海域が主漁場となる。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となり、北部海域ではマサバに混獲される。
- (3) 魚体: マサバは30～34cm(2歳魚)が主体。ゴマサバは30～35cm(2歳魚)が主体。

#### 5. 犬吠～三陸海域(まき網、定置網)

- (1) 来遊量: マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚、4歳魚は前年を下回る。マサバとしては前年並か下回る。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳以上は前年を下回る。ゴマサバとしては前年を下回る。サバ類全体としては前年並～下回る。
- (2) 漁期・漁場: まき網の漁場は、犬吠埼～常磐南部が中心となり、6～7月は常磐北部にも形成される。
- (3) 魚体: マサバは23～25cmの1歳魚および28～34cmの2歳魚が主体となり、35cm以上(3歳魚以上)が混じる。ゴマサバは24～30cm前後(2、1歳魚)がマサバに混獲される。

## 漁況の経過(2008(平成20)年12月～2009(平成21)年3月)および見通しについての説明

### 1. 資源状態

#### (1) マサバ

資源量は依然低い水準だが、加入水準の高い2004年級群、2007年級群の発生により増加傾向にある。

2004年級群(5歳魚)は推定加入尾数37億尾の卓越年級群と評価され、発生後一貫して漁獲の主体となったが、残存資源量は減少している。

2005年級群(4歳魚)の加入尾数は5億尾程度と、加入量水準の低い2001・2003年級群並の水準と判断され、残存資源量は少ない。

2006年級群(3歳魚)の加入尾数は1.7億尾程度であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも豊度は最低水準と判断され、残存資源量は少ない。

2007年級群(2歳魚)は、2008年7月時点では加入尾数24億尾(2004年級群の7割程度)と見積もった。発生から現在までの累積漁獲尾数は2004年級群の7割程度である。釧路水試による2008年6～7月の三陸～道東海域の流し網調査では2005年(2004年級群1歳時)をやや下回るもののまとまって漁獲され、中央水研による北西太平洋浮魚資源調査でも2004年級群と同等に漁獲された。サンマ棒受網でも混獲がみられるなど、2008年夏～秋季の太平洋北部での分布量は2004年級群に準ずる水準にあったと考えられることから、残存資源量は高い水準にあると考えられる。

2008年級群(1歳魚)は、2009年3月までの各地漁業での漁獲尾数は、加入水準の高かった2004年級群、2007年級群に比べ少ないものの、加入水準の低かった2005年級群、2006年級群より多かった。2008年5月の移行域幼稚魚調査(中央水研、北水研)および2008年6～7月の西部北太平洋サンマ資源調査(東北水研)では、最低ではないものの低い加入量水準であると考えられた。三陸～道東海域における2008年夏～秋季の流し網調査(釧路水試)では、過去同調査での最低水準の平均CPUE(0.2尾/回)であった。2008年9～10月の三陸～道東～千島沖合海域の秋季北西太平洋浮魚資源調査(中央水研)では、出現率・平均CPUEが22.0%・22.2尾/網で、加入水準を反映していると考えられる出現率でみると2005年級群並であった。サンマ棒受網への混獲は2007年級群より少なかった。2009年2月の常磐～房総海域における越冬期中層トロール資源調査(中央水研)ではマサバの漁獲は皆無であった。以上の情報から、2008年級群の加入豊度は最低ではないものの低い水準と考えられる。

親魚量は2004年級群の高い加入により増加したが、続く2005、2006年級群の加入量水準は低く、2004年級群の残存資源尾数も減少している。2007年級群は2004年級群に準ずる加入水準の高い年級であると考えられる。今期は2歳魚であり、産卵への寄与はまだ低いが、今後のマサバ親魚資源の主体となる重要な年級群である。親魚量の減少を一時的なものにとどめ、マサバ資源の回復を図るためには、2007年級群の保護が必要である。マサバ太平洋系群の親魚量の回復を目指した資源回復計画は20年度以降も継続されることから、マサバ資源の回復のため2007年級群保護の努力に期待したい。

#### (2) ゴマサバ

資源量は1996、2004年級群の高い加入量水準によって増加し、2005年にピークに達した後、2005、2006年級群の加入量水準が低いために減少してきているが依然高い水準にある。

2004年級群(5歳魚)は、推定加入尾数30億尾の卓越年級群であるが、残存資源量は少ない。

2005年級群(4歳魚)は、推定加入尾数が4億尾であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも豊度は低いと判断され、資源量は少ない。

2006年級群(3歳魚)は、推定加入尾数が2億尾であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも豊度は過去最低水準であると判断され、資源量は少ない。

2007年級群(2歳魚)は、2月までの各地漁業の漁獲状況では、2005、2006年級群の同期を上回って漁獲され、漁獲物の主体となった。加入尾数は、2008年7月時点では近年の平均的な水準の7億尾と推定されていたが、その後の漁況経過や出現状況を勘案すると近年の平均を上回る加入豊度であると判断される。

2008年級群(1歳魚)は、2月までの各地漁業では、2007年級群の同期を下回る漁獲状況であった。秋季のサンマ棒受網への混獲割合(混獲のあったサンマ漁獲地点の割合)も前年を下回った。調査船調査では、5~10月の北西太平洋における中層トロール調査(東北水研・中央水研)や流し網調査(釧路水試)では低い出現率とCPUEであった。前述の2月の越冬期資源調査ではほとんど漁獲されなかった。以上の情報から、2008年級群の加入量水準は近年の平均を下回る低い水準であると判断される。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### 1) マサバ

#### (1) 来遊量

資源状態の項に前述のとおり、1歳魚(2008年級群)の加入量水準は低く、来遊量は多かった前年を大きく下回ると考えられる。2歳魚(2007年級群)の加入量水準は卓越年級群である2004年級群に準ずる高い水準と考えられ、来遊量は少なかった前年を大きく上回る。3歳魚(2006年級群)および4歳魚(2005年級群)は資源量が少なく、来遊量は前年を大きく下回る。5歳魚(2004年級群)は卓越年級群であったが、残存資源量は少ないと考えられる。

なお現在常磐~房総海域では2歳魚(2007年級群)の漁獲は少ないが、伊豆諸島海域のたもすくい、棒受け網、まき網および熊野灘のまき網の対象となっていることから、2歳魚の多くは房総海域以南へ南下していると考えられる。本予測期間中に北上して北部まき網漁業の対象となると考えられる。

#### (2) 漁期・漁場

常磐海域から犬吠周辺におけるまき網による12~2月のマサバの漁獲量(主要港集計、暫定値)はそれぞれ1万3千トン、7.5千トン、1千トンと、前年同期(2万2千トン、9千トン、4千トン)を下回った。漁場は犬吠~常磐南部海域が中心であった。千葉県以北沿岸の定置網等による12~2月のマサバの漁獲量は800トン(暫定)と、前年同期(964トン)をやや下回った。伊豆諸島海域のたもすくい・棒受け網による1~2月の漁獲量は355トン(暫定)と、前年同期(6トン)を大きく上回り、近年では2007年同期(863トン)に次ぐ水準であった。

本予報期間における北部海域のまき網漁場は、例年の傾向から犬吠~常磐海域が中心となり、期後半の6月~7月は常磐北部海域でも形成されることが考えられる。伊豆諸島では現在の主漁場である北部海域で今後も漁場が形成されることが考えられる。黒潮流路は漁期前半はC型基調で推移し、5~6月に一時的にB型に移行すると予測されていることから、漁期前半の漁場形成は低調に推移し、5~6月に海況条件が好転すれば継続して漁場が形成される可能性がある。熊野灘より西の海域ではマサバの漁場形成は期待できない。

#### (3) 魚体

12~2月のまき網漁獲物の主体をなした1歳魚(2008年級群)・2歳魚(2007年級群)の尾叉長はそれぞれ23~25cmおよび28~32cmであった。本予報期間は2歳魚(2007年級群)が主体となり、これに1歳魚(2008年級群)が混じると考えられる。伊豆諸島海域~熊野灘にかけては、たもすくいでは1月は23~40cmまでの幅広い組成、2月は30~34cmの2歳魚(2007年級群)と35cm以上(3歳以上、2006~2004年級群)が漁獲され、3月は30~34cmの2歳魚主体となった。静岡県のまき網では30~34cmの2歳魚(2007年級群)主体であった。本予報期間は、30~34cmの2歳魚主体に、35cm以上の3歳以上(2006、2005、2004年級群)が混じると考えられる。



## 2)ゴマサバ

### (1)来遊量

資源状態の項に前述の通り、1 歳魚(2008 年級群)はこれまで得られている情報から近年の平均を下回る加入量水準とみられ、来遊量は多くの海域で前年を下回る。2 歳魚(2007 年級群)はこれまで得られている情報から2004 年級群に及ばないが2005、2006 年級群を上回る加入量水準と推定され、来遊量は低水準であった前年を上回る。3 歳(2006 年級群)以上は、資源量が少なく、来遊量は前年を下回る。

### (2)漁期・漁場、魚体

2008 年12月～2009 年2月のゴマサバ漁況は、薩南海域では2 歳魚(2007 年級群)および1 歳魚(2008 年級群)、4 歳(2005 年級群)以上を対象に前年を上回った。宿毛湾では前年を上回り、平年並であった。日向灘～豊後水道、紀伊水道、熊野灘では主に2 歳魚を対象に前年を下回った。伊豆諸島周辺海域では2 歳魚主体に前年を下回った。犬吠～常磐海域のまき網では、1、2 歳魚がマサバに混獲され、漁獲量は前年を下回った。12～2月の漁獲量は、薩南海域～紀伊水道外域は5.8 千トン(前年同期実績5.9 千トン)、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は7.3 千トン(同9.9 千トン)、犬吠以北海域は3.6 千トン(同5.2 千トン)であった(漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値)。

各地の漁期・漁場は、薩南海域では1、2 歳魚(2008、2007 年級群)が、日向灘～熊野灘では2 歳魚(2007 年級群)が主体となって期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では2 歳魚主体で期を通じて近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に漁場が形成される。犬吠以北海域では、1、2 歳魚主体に犬吠埼周辺～常磐南部海域でマサバに混獲される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1 歳魚(2008 年級群):30cm 以下、2 歳魚(2007 年級群):30～35cm、3 歳(2006 年級群)以上:35cm 以上。

## マイワシ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し(2009(平成21)年4月～7月)

対象海域:北薩～道東

対象漁業:まき網、定置網、船曳網

対象魚群:0歳魚(2009(平成21)年級群)、1歳魚(2008(平成20)年級群)、2歳魚(2007(平成19)年級群)並びに3歳魚(2006(平成18)年級群)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 日向灘～相模湾のマシラス(船曳網)

(1) 来遊量:低水準。前年を下回る。

(2) 漁期:渥美外海～相模湾では6月まで。

2. 北薩～熊野灘(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量:全海域を通じて前年並あるいは前年を下回る低水準で推移する。

(2) 漁期・漁場:全期間。全体として散発的な漁に留まる

(3) 魚体:日向灘～豊後水道南部西側は7～12cm。漁期後半の薩南～北薩海域は13～17cm(以上0歳魚)。薩南～北薩海域の漁期前半は18～20cm。豊後水道南部東側は19～21cm、熊野灘は17～20cm(以上1歳魚)。

3. 伊勢・三河湾～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量:前年並の低水準に留まる。ただし、魚群分布状況ならびに海況いかんでは、局所的に1歳魚の漁獲量が増大することもありうる。

(2) 漁期・漁場:漁期を通じて、散発的な漁に終始する。

(3) 魚体:14～20cm前後(1歳魚主体で2歳魚が混じる)で、後半には13cm以下(0歳魚)が加わる。

4. 房総～道東(まき網、定置網)

(1) 来遊量:2, 3歳魚の漁場への来遊はごく少ない。1歳魚も前年同様あるいはそれを下回る。

(2) 漁期・漁場:4～5月は鹿島灘～九十九里沖で、6月には常磐海域へ、7月には仙台湾～三陸南部海域へと拡大・北上する。ただし、常磐以北海域においては来遊の見られないことも想定される。三陸南部～仙台湾の定置網は5月以降。道東での漁場形成は無い。

(3) 魚体:4～5月は14～16cm、6月以降16～18cm(いずれも1歳魚)となる。

漁況の経過(2008(平成20)年12月以降)および見通し(2009(平成21)年4～7月)についての説明

1. 資源状態:

2006(平成18)年級群の豊度を測る種々の調査の結果、1歳魚として2007(平成19)年2月の越冬期浮魚類現存量推定調査(中央水研)での分布密度は前年を下回った。その後、同年6～7月の北西太平洋サンマ資源調査(東北水研)、同年6～9月に実施された表層流し網調査(釧路水試)ならびに同年9～10月の秋季北西太平洋浮魚資源調査(東北水研)でも、沖合域における分布密度は低かった。また、実際の2007年漁期前半(8～11月)における漁況経過も低調であり、1歳魚時点での2006年級群の豊度は低いと判断された。その後の各水域における漁況経過においても同年級群の出現はごく少なく、今季の3歳

魚としての資源量水準は前年を下回ると推定された。

2007（平成19）年級群は、0歳魚時点での豊度を評価する2007（平成19）年5月の移行域幼稚魚調査（中央水研）、同年6～7月の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研）において、2005（平成17）年級群と同程度の分布量が認められた。0歳魚を対象とした2007年漁期においては、北薩～土佐湾にかけて前年を上回る好漁を示した海域が多くみられた一方で、紀伊水道外域以東の海域では低水準の漁獲に留まった。2008（平成20）年2月の越冬期浮魚類現存量推定調査（中央水研）では、1歳魚となったマイワシ2007年級群のCPUE（1時間曳網当たり採集重量）は0.30（kg/網）で、前年の0.12kg/網を上回ったものの、その水準自体は高いものではなかった。同2008年冬季漁期における房総～常磐海域の未成魚越冬群指数（千葉水総研）は0.61で、2006（平成18）年級群の0.59と同程度であったが、2008（平成20）年の漁況経過は低調であった。2007年級群が2歳魚となった2009年2月に、豊後水道南部西側海域で2007年級群魚が主体となったマイワシのまとまった漁獲があったが（300トン強）、隣接する海域における冬季のマイワシ漁獲物の主体は1歳魚であり、豊後水道南部西側海域のみでみられた特異的な漁況と考えられる以上の情報をまとめると、今季の2歳魚としての資源量水準は前年を下回ると推定された。

2008（平成20）年級群は、2008（平成20）年5月の移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく0歳魚時点での加入量指数ならびに同年6～7月の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研）の両調査において前年を下回る分布状況が示された。同年6～9月に実施された表層流し網調査（釧路水試）では、0歳魚としての採集尾数は前年を上回ったものの、全体としては低水準に留まり、さらに、同年9～10月の秋季北西太平洋浮魚資源調査（中央水研）での出現率も近年3年を下回るなど、マイワシ0歳魚を対象とした種々の調査船調査の結果は、いずれも2008年級群が低豊度であることを支持する結果となった。実際の2008年漁期の各海域における0歳魚の漁獲も、伊豆東岸（静岡県）の大型定置網ならびに神奈川県の設定網による漁獲量が平年の約10倍と高い水揚げを示した以外は、いずれも近年の低水準の漁獲量に留まるか、あるいはさらに下回るといった低調な漁況に終わった。2008年級群を対象とした最新の情報は、2009（平成21）年2月に常磐・房総沿岸～沖合域（148°E以西）で実施された越冬期浮魚類現存量推定調査（中央水研）におけるマイワシ1歳魚の漁獲情報となるが、1歳魚（12cmモード）と思われるマイワシの漁獲ならびにCPUEは、三陸沖148°E付近の2測点を除いては極めて低調な結果に留まった。

2009（平成21）年級群は、これまでの卵採集情報や各海域におけるシラス漁況ならびに調査結果からみて、低水準の発生規模に留まるものと予測される。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体：

### マシラス：

2008年12月から2009年2月現在にかけて、シラス漁業は主に予報対象海域南西側（日向灘、豊後水道、土佐湾、紀伊水道）にて行われたが、2008年12月の紀伊水道におけるシラス漁獲物（標本船・標本漁組資料）においてマシラスの割合が6割強を占めた以外は、マシラスの漁獲あるいは混獲は極めて少量に留まった。

毎年3月下旬～5、6月にかけて、渥美外海ならびに遠州灘～相模湾ではシラス漁が行われる。昨漁期（2008年）は、上述の海域において、近年では高水準のマシラスの分布ならびにシラス漁に好適な海況（渥美外海域における暖水の沿岸域への進入）がみられ、漁獲量の増加をもたらしたが、今漁期（2009年）については、マシラスを産出する親魚量の水準が回復していないこと、また本年1～3月上旬に相模湾で実施されたシラス採捕調査（神奈川県水技セ）におけるマイワシ出現状況が前年・前々年に比べ少なかったことから、両海域共にマシラス漁獲量は前年（および前々年の好漁期）を下回ることが予測される。

未成魚・成魚：

薩南および北薩海域では、今漁期前半は2008（平成20）年級群の1歳魚を主体に、また漁期後半には2009（平成21）年級群0歳魚を主体に漁獲されると予測される。但し、その来遊量は両年級群共に低く、ごく散発的な水揚げに留まる。

日向灘および豊後水道南部（西側）海域では、近年は当歳魚が漁獲の主体となっている。今漁期についても2009（平成21）年級群の0歳魚が主たる漁獲対象となることが予測される。来遊量としては、日向灘においては前年並、豊後水道南部（西側）海域においては、前年並あるいは下回る程度と予測される。

九州東岸海域で2009（平成21）年級群の0歳魚が今漁期の主体となることが想定されているのに対して、四国周辺海域から熊野灘にかけての海域では、漁獲の主体は2008（平成20）年級群の1歳魚で、海域によって2009（平成21）年級群の0歳魚が混ざる漁獲物組成になると予測される。ただし、いずれの海域においても、漁獲の主体を成す2008（平成20）年級群ならびにその前後の年級群の豊度は近年の低水準にあるものと想定されており、予想漁獲量も前年並あるいはそれを下回る

漁獲物の体長組成は、各海域における主たる年齢群および漁獲時期により大きく異なる。2009（平成21）年級群の0歳魚が漁獲の主体となる日向灘～豊後水道南部西側では7～12cm、また漁期後半に0歳魚が来遊する薩南～北薩海域では、13～17cm程度と予測される。一方、2008（平成20）年級群の1歳魚が漁獲の主体となる海域については、薩南～北薩海域（漁期前半）：18～20cm、豊後水道南部東側：19～21cm、熊野灘：17～20cmと予測される。

伊勢・三河湾～相模湾では、2008（平成20）年級群（1歳魚）並びに2009（平成20）年級群（0歳魚）が今漁期の主体を成すものと想定される。このうち、2008（平成20）年級群（1歳魚）については、資源豊度自体が低く推移していると予測されることから、基本的には前年並の低水準に終始する。一方で、2008年夏～秋季に相模湾および伊勢湾において当時0歳魚の2008年級群のまとまった漁獲がみられ、また2008年12月～2009年2月にかけて伊豆半島東岸の定置網で平年比10倍もの大量の0（年を越えて1）歳魚の漁獲があるなど、2008年級群の高豊度の来遊を示す結果もあることから、魚群分布状況や海況いかんによっては、局所的に2008年級群の1歳魚の漁獲量が増大する地域、時期が発生することも考えられる。2009（平成21）年級群については、2009年級群を産出した親魚資源量が低水準であること、ならびに周辺海域におけるマシラス出現状況が低調であったことから考えて、低調な来遊に留まると予測される。

漁期は予報期間（4～7月）を通じて継続する。体長組成は、1歳魚（2008（平成20）年級群）主体：14～20cm前後で推移し、漁期後半には11～13cmの0歳魚（2009（平成21）年級群）が加わる。

房総以北の海域においては、今漁期の主体となる年級群として2006（平成18）年級の3歳魚から2008（平成20）年級の1歳魚が想定される。このうち、2006（平成18）および2007（平成19）両年級群については、千葉水試が算出した未成魚越冬群指数が2005（平成17）年級群の半分以下と低い水準に留まり、さらにこれまでの漁獲による減耗も大きく、両年級群の残存資源量ならびに今漁期の漁場への来遊はごく少量となることが予測される。2008（平成20）年級群についても、これまでの漁獲状況から前年同様あるいはそれを下回る低調な漁況で推移する。

今後の旋網の漁場形成位置・海域は、4～5月は鹿島灘～九十九里沖、6月には常磐沖、7月に仙台湾～三陸南部海域まで拡大・北上することが予測される。ただし、前述のとおり来遊群の主体となる各年級群の豊度が低いことから、大規模な漁場形成の期待は薄く、特に対象海域北部では来遊のみられないこ

とも想定される。三陸南部～仙台湾の定置網による漁獲は5月以降。道東での漁場形成は無いと考えられる。

体長組成は、2, 3歳魚（2006, 2007年級）については20～21cm、1歳魚（2008年級）については、4～5月は14～16cm、6月以降は16～18cmに成長して漁獲されるものと予測される。

## カタクチイワシ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し (2009(平成 21)年 4 月～7 月)

対象海域：北薩～道東。

対象漁業：まき網、定置網、船曳網。

対象魚群：0 歳魚(2009(平成 21)年級群)、1 歳魚(2008(平成 20)年級群)、および 2 歳魚(2007(平成 19)年級群)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

### 1. 西薩～常磐南部のシラス(船曳網)

(1) 来遊量：西薩～土佐湾では前年を下回る。渥美外海～相模湾では好漁の前年を下回る。鹿島灘～常磐南部では不漁の前年並。

(2) 漁期・漁場：全期間。

### 2. 北薩～紀伊水道外域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：北薩・薩南では前年を下回る。日向灘～豊後水道では前年並か前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：北薩・薩南では 5～7cm(0 歳魚)主体、他の海域では 12cm 以下(0 歳魚・1 歳魚)主体。

### 3. 熊野灘～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量：熊野灘では前年並。伊勢湾、渥美外海では好漁の前年並。駿河湾～伊豆半島東岸では前年並。相模湾では前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：10～12cm 台(1 歳魚)主体。

### 4. 房総～道東(まき網、定置網)

(1) 来遊量：まき網は前年を上回る。三陸の定置網は前年並。道東の定置網は前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網の主漁場は 4 月～5 月に鹿島灘～外房海域、6 月以降鹿島灘以北にも広がる。仙台湾から三陸南部の定置網は 5 月から。

(3) 魚体：11～12cm 台(1 歳魚)主体。

## 漁況の経過(2008(平成 20)年 12 月～2009(平成 21)年 2 月)および見通しについての説明

### 1. 資源状態：

カタクチイワシ太平洋系群の資源量推定値は 1998(平成 10)年から 2007(平成 19)年まで 80 万～150 万トンで推移している。水準は過去 30 年で高位、動向は 5 年間で減少傾向にある。本系群は漁場が形成される沿岸だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布している。

2007(平成 19)年級群は、2007 年 6～7 月の北西太平洋サンマ資源調査(東北水研)における 10cm 未満の未成魚の分布量や 0 歳魚としての道東への来遊水準から、0 歳魚としては高水準であった。しかし、その後各地の漁獲には繋がらず、2008 年 1～6 月における常磐・房総海域においては 2007(平成 19)年級群(1 歳魚)が漁獲の主体となったものの、千葉県～福島県合計の漁獲量は 7.3 万トンで、1999 年以降(21.4 万～7.8 万トン)で最低水準の 2000 年並であった。この年級群は 1 歳魚の春季で体長 12～13cm 台に達しており、1 歳魚としては

大型で、成長が速く夏季の産卵後に死亡したと考えられ、1歳魚の夏秋季には道東へほとんど来遊しなかった。このため、現在では低水準となっており、今後の漁獲の主体とはならない。

2008(平成 20)年級群は、2008 年 6~7 月の北西太平洋サンマ資源調査(東北水研)における 10cm 未満の未成魚の推定分布量が前年を大きく下回ったが、2008 年 9~10 月の秋季北西太平洋浮魚資源調査(中央水研)では近年の中でも 0 歳魚としては高い水準であった。西日本においてはシラスから 0 歳魚まで概ね不漁であったが、伊勢・三河湾海域ではシラスが好調で、秋季も同群から成長したと考えられる未成魚・成魚が主体で好漁であった。また 0 歳魚を主対象とする秋季の八戸の小あぐり、夏以降の九十九里海域の沿岸 2 そうまきも好漁で、12 月初旬から常磐・房総の 1 そうまきでも 0 歳魚が漁獲された。しかし 2009 年 2 月の越冬期浮魚類現存量推定調査(中央水研)では分布範囲が沖合まで広く CPUE は前年を上回ったが高い水準ではなかったこと、常磐房総海域での 12 月~2 月の漁況も好漁とは言えなかったことから、2008(平成 20)年級群の現時点での資源水準は近年の中でも中水準であると考えられる。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体：

### (1) 西薩~常磐南部のシラス(船曳網)

西薩~土佐湾では、総じて親魚の来遊水準が低くシラスの加入状況は悪いと考えられるため、前年を下回ると予測される。渥美外海では、海況予報からある程度の暖水波及が見込まれ、前年秋季のシラス漁も好漁で地先由来の親魚の資源水準も低くはないと考えられることから、極めて好漁であった前年には及ばないが中漁以上と予測される。遠州灘~相模湾では、前年の静浦港におけるカタクチイワシ水揚量と 3~6 月のシラス水揚量との相関関係および大型成魚資源量指数値(茨城水試)との相関関係から、好漁であった前年を下回ると予測される。鹿島灘~常磐南部では、予測期間中は親潮系冷水の南下の影響および親魚の来遊水準が低いことから、前年並の不漁になると考えられる。

### (2) 北薩~紀伊水道外域(まき網、定置網)

北薩・薩南では、1 月以降親魚の来遊がほとんど無いため、今後の漁獲の主体となる 0 歳魚(2009(平成 21)年級群)の加入も少ないと予測される。日向灘では 2 月時点で大羽の来遊が無かったため、夏季に盛漁となる周辺海域が起源と考えられる体長 10~11cm 台の群の来遊に左右されるが、2 月までの体長 9cm 以下の来遊状況から予測期間中は不漁の前年並か前年を下回ると予測される。豊後水道では、近隣海域での前年のシラス漁およびまき網での小中羽漁が不漁であったことから、予測期間前半の主対象となる 1 歳魚(2008(平成 20)年級群)が少ないと考えられるが、2 月に体長 3~9cm の小型魚も出現しているため、漁況は総じて前年並か前年を下回ると予測される。土佐湾から紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

### (3) 熊野灘~相模湾(まき網、定置網、船曳網)

熊野灘では 2 月現在、常磐・房総海域から来遊したと考えられる 1 歳魚(2008(平成 20)年級群)主体で好漁であり、予測期間中は前年・平年(過去 10 年平均)並の漁況と考えられる。伊勢湾および渥美外海では、前年秋季のシラス漁が好漁で地先由来の 2008(平成 20)年級群の資源水準が低くはないと考えられ、漁況は好漁の前年並と予測される。駿河湾から伊豆半島東岸では、前年のシラスの漁獲量や未成魚の漁獲の季節変動パターンが前々年と類似しており、予測期間中の漁獲は地先の 1 歳魚(2008(平成 20)年級群)が主体になると考えられるため、前年並の漁況と予測される。相模湾では、漁獲の主体となる 2008(平成 20)

年級群の資源水準が 2007(平成 20)年級群より高いこと、1~2 月の相模湾での漁獲量が急増したことから前年を上回ると考えられる。

(4)房総～道東(まき網、定置網)

前年 12 月から今年 2 月までの漁期における常磐・房総海域(千葉・茨城・福島計)の漁獲量は 3.6 万トンで、前年同期の 160%、前々年同期の 87%であった。好漁であれば同海域で 10 万トンを超える時期であるため好漁とは言えないが、不漁の前年を上回った。今漁期は体長 9~11 cm 台の 1 歳魚(2008(平成 20)年級群)が 12 月初旬の漁期始めから主体となり、例年であれば漁期前半に主体となる体長 12cm 以上の群が極めて少なかった。常磐・房総海域では、今後も 1 歳魚(2008(平成 20)年級群)が漁獲の中心となり、資源水準から判断すれば好漁ではないが不漁の前年を上回ると予測される。魚体は現在の漁獲物と例年の変動傾向から、漁期・漁場は例年の漁場推移から推察した。

三陸の定置網は、近年の漁況経過より前年並の来遊と考えられる。道東の定置網では各年級群の資源状況から前年を上回ると考えられる。



## 参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	三重県水産研究所
青森県水産総合研究センター	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
岩手県水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
宮城県水産技術総合センター	高知県水産試験場
福島県水産試験場	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
茨城県水産試験場	大分県農林水産研究センター 水産試験場
千葉県水産総合研究センター	宮崎県水産試験場
東京都島しょ農林水産総合センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター 大島事業所 八丈事業所	社団法人 漁業情報サービスセンター
神奈川県水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
静岡県水産技術研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 中央水産研究所
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	